

第2回地域共生フォーラム・アピール

(はじめに)

本日、全国から350名の協同組合の仲間が集い、新型コロナウイルス感染症における取り組みを共有し、「地域共生社会と協同組合の可能性」について考えました。

協同組合は、地域に暮らし働く人びとがつくる組織として、コロナ禍のもと様々な困難に出会いながらも、医療・介護福祉、食の生産・供給、助け合い活動をはじめ、地域の“生きる”を支える努力を続けています。

(さまざまな困難の中での取り組み)

1月、国内初の新型コロナ患者を受け入れたJA厚生連の病院では、まだ行政のガイドラインがなく、手探りでウイルスとの闘いを始めました。新型コロナ患者に対応した医療福祉生協の病院では、組合員が駐車場から横断幕や歌で入院患者や医療従事者を励まし喜ばれました。

コロナ禍では、私たち協同組合が大切にしてきた「人が集って活動する」ことを休止せざるを得ない場面もありました。医療福祉の現場では「自分が感染を広げてしまうのではないか」「感染防止のためご家族の面会をどうしたらよいか」など、さまざまな葛藤が生まれました。そうした場合も、原点に立ち返り、「患者・利用者の皆さんは何を望んでいるのか」「組合員としてできることは何か」「協同組合があつてよかったと言われるにはどうしたらよいか」を話し合い、皆で解決策を見出してきました。

感染の恐れから受診や通所控えが起き、感染予防対策の経費増とあいまって、協同組合の医療福祉事業も大変厳しい経営状況に陥っています。そんな中でも、新型コロナの学習会を開いたり、感染防止策についてお知らせを配るなど、協同組合らしく組合員や地域住民の理解を広げる努力をしてきました。

コロナ禍では高齢者や社会的弱者ほど大きな影響を受けています。そのため、お米などの食料、手作りマスクなどを困っている人にお届けしました。悩みながらも、住民どうしの助け合い活動、相談活動、居場所づくりなど地域における取り組みを進めてきました。

(これからに向けて)

コロナ禍を克服していくには、誰も取り残さず、助け合っていくことが求められます。自分だけが、自国だけがよくなるろうとしても、ウイルスはそれを許しません。

協同組合は助け合い・協同の組織です。今こそ、私たちは、地域の皆さまとともに、つながることの大切さを広げ、助け合いのある地域づくりを進めていきたいと思えます。これは協同組合単独ではできません。協同組合間の連携を強め、さまざまな組織との連携を広げていきます。

政府や自治体には、医療提供体制整備とともに、医療福祉事業をはじめ協同組合の諸活動へのいっそうの支援を求めたいと考えます。

本フォーラムに集った私たちは、困難な中でこそ、歩みを止めず、努力を積み重ねることが、地域共生社会を築くことにつながっていくものと確信します。